

子ども読書活動推進計画について

島崎 孝
(自民クラブ)



質問 第四次東久留米市子ども読書活動推進計画が策定されたが概要を伺う。
答弁 4つの基本方針を示した。特に「読書や調べることへの子ども主体性を引き出す取り組み」について、情報リテラシーを身につけることの重要性と、これも基本法の基本理念を盛り込んだものとした。

質問 インターネットのおかげで大変多くの情報を得ることができるようになった。情報リテラシー教育の重要性、本計画の中での取り組みを改めて伺う。
答弁 本計画においても、多くの情報の中から正しい情報を選択し、活用していくための情報リテラシーの獲得は重要なものと捉えている。図書館では、子どもたちが必要とする多くの情報を収集・提供し、それを利用した「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催したり、夏休みには調べ方の講座を行っている。

市の震度計を地下から地上へ設置

三浦 猛
(公明党)



質問 平成23年、東日本大震災が発生した際、近隣市の震度は全て5弱との発表だったが、本市だけ震度4。その後、市の震度計が市役所の地下2階相当の場所に設置されていることを知る。揺れにくいとされている地下での計測値は、災害対策本部の設置等、初期の遅れにつながる恐れもあることから、震度計の設置環境の確認を求め質問を開始。調査を重ね、平成23年度から議会での18回目の質問で、令和5年度に機器の更新とともに、地上階への移設を進める予算が計上された。今年度に震度計が、新たな場所に設置されたが、これまでの変更点を伺う。

答弁 本庁舎の地下に設置していた震度計を撤去し、本庁舎西側敷地の地上部に新たに設置した。また、市役所1階の保険年金課窓口の上部に、市内の震度を表示する市民向けのモニターを設置した。

地域福祉充実のために

関根 光浩
(公明党)



質問 地域福祉計画に関して、重層的支援体制整備事業の実施と地域福祉コーディネーターの全エリアへの設置の進め方について伺う。

答弁 計画期間の前期5年間で多機関連携による重層的な支援体制の構築に向け、地域福祉コーディネーター事業等との協働体制の深化を図り、重層的支援体制整備事業の実施と地域福祉コーディネーターの全エリアへの配置を同時に行っていく予定。

質問 部活動の地域連携について、拠点校方式に至った経緯や第一号として中央中学校の陸上部を選定した経緯は、ある学校が1校のみで、陸上の専門的な指導ができる教員がおり、市内のほぼ中央に位置していることから選定。
質問 今後、体育館の利用頻度も少なくなると思うが、地域スポーツ団体への貸し出しが広がるかと考えてよいのか。
答弁 利用拡大の可能性は検討していく必要がある。

質問 認知症サポーター検診事業実施への考え方について伺う。
答弁 認知症の早期発見・早期治療につなげることができるよう、誰もがなる可能性のある病気であること、自分ごととして捉えていただくような取り組みにしていきたい。市医師会とも協議をしながら、全国的な動きにも合わせた認知症の普及啓発、認知症サポーター検診を行い、周知を図っていききたい。

一般質問 市政のここが



東久留米市議会
会議録検索システム

(<https://www.city.higashikurume.tokyo.dbsr.jp/index.php/>)

第1回定例会の一般質問は、3月5日・6日・7日・10日の4日間で行われ、各議員が当面する市政運営について市長の姿勢や考え方を質問しました。主な内容を掲載します。

学童保育所の増改築を。

永田 雅子
(日本共産党)



質問 低学年児童における学童保育所入所待機通知書の送付件数の内訳について伺う。
答弁 受け付けた一次申請のうち、第五小学校区で13件、小山小学校区で36件、南町小学校区で31件の合計80件を送付した。

意見 借りられるか借りられないか分からない学校の教室を当てにしているのではなく、待機児童が多く生じている学童保育所から増改築すべき。
質問 スクールカウンセラーは原則週1回の配置だが、その利用状況について伺う。
答弁 多くの学校では予約制という形を取っており、市が把握している中で、どの学校も予約はほとんど全部入っていると聞いている。
要望 課題を抱えるお子さんが増えていることから、配置をもっと拡充するように、東京都に求めてほしい。

年末の市長選挙へ決断すべき時

宮川 豊史
(久留米ハートネット)



質問 新年度一般会計予算は前年度より約30億円増加、過去最大の50億円。財政が厳しいから仕方ないでは困る。財政が厳しいなら改革の具体策が必要。富田市政残任期1年を切り、これまで新しい事業に積極的に取り組み多くの実績を残したものの、財政は悪くなる一方。もしここで終れば富田市長は改革せず財政を悪化させただけの市長となる。これではいはずがない。「電馬」という名に恥じない市政運営をしてほしい。将来への責任を果たすために本気の改革に取り組み情熱はあるのか。
市長 持てる限りの情熱で引き続き将来を見据えたまちづくりを行いたい。

質問 財政健全経営計画では財政調整基金を20億円以上維持すると示しているが、今回の予算の結果、残高を維持できなくなったことへの見解は？
答弁 これまでない厳しい予算編成だった。今後も劇的改善は考えづらい。

安心安全が最優先！

引間 太一
(ニューウェーブ)



質問 安心くるめーるについて、過去3年間でどれくらい発信されているのか伺う。
答弁 過去3年間の発信について、令和4年度は25件、5年度は14件、6年度は2月末現在で10件となっている。

要望 不審者情報や犯罪、その他情報発信が近隣市だと西東京市しかない。その他近隣市の情報が得られる仕組みについて対応を求めたい。
質問 南沢通りの道路拡幅について、本格整備まで、少しでも早く市民がよりに安全に通行できるように、これまでと同様の安全処置を求めたい見解は？
答弁 整備工事に先立ち、まずは、歩行者などが安全に通行できるように仮舗装を行い、暫定開放していきたいと考えている。

意見 手続きが順調に進み、少しでも早く、そしてより安全に通行できるようになることを期待する。

災害の脅威等から市民を守る施策を

細谷 祥子
(都民ファーストの会)



質問 八潮市の陥没事故で、不安に思う市民の方もおられる。本市の下水道施設の点検・補修について伺う。
答弁 所沢街道および、小金井街道に埋設されている荒川右岸東京流域下水道黒目幹線が緊急点検の対象になっており、東京都からは、異常が確認された箇所は無いと報告を受けている。

質問 手付かずのままの建物や並んでいる上の原地区未整備区域の改善に向けた進捗状況について伺う。
答弁 令和7年度中には内閣府から方針が示される見込み。現時点では具体的な年次は未定。今後も国と意見交換を継続していく。
質問 こどもの生きる力を育み、主体性や社会貢献への意識を高める教育に取り組みられているか伺う。
答弁 より良い社会の実現に向け、主体的に考え、行動する意欲を育むことを、目指し取り組んでいく。

オンラインによる市民参加の構築

岩崎 さやこ
(国民民主党)



質問 オンラインプラットフォームを活用した市民参加の意義と効果について、市の考えは？
答弁 市民にとっては、自らの多様な知識や経験を市政に反映でき、市の課題に応じた市民サービスを市政の計画等に取り入れることができる。市にとつては、きめ細やかなニーズに合ったサービスを提供することが可能となり、行政活動への関心が高まり、市民の自治への意識が醸成される効果がある。

質問 中小学校のプログラミング授業について、授業内容や教員の研修などの取り組みは？
答弁 中学校では具体的な技術に関する知識を理解し、実践的・体験的な活動を行う。小学校では発達段階や各教科の特質に応じて、基本的な操作を習得する活動を行う。全小中学校に情報教育推進リーダーを置き、日常的な教員研修、連絡会への参加を行っている。



本会議の進行を務める沢田孝康議長